



2021年3月24日

九州旅客鉄道株式会社
宮崎交通株式会社

列車とバスの運行情報を提供する新しいデジタルサイネージを 宮崎県内の3駅に設置します

九州旅客鉄道株式会社（代表取締役社長執行役員：青柳俊彦、本社：福岡市）と宮崎交通株式会社（代表取締役社長：川端 史敏、本社：宮崎市）は、JR線と宮崎交通バスの運行情報を、同一のモニター画面上に表示することができる新しいデジタルサイネージを共同で開発しました。

この新しいデジタルサイネージを、宮崎交通バスが乗り入れる宮崎県内の日豊本線の3駅（高鍋、日向新富、佐土原）の駅舎内に設置し、2021年3月25日より運用を開始します。

これまで、JR九州では列車の走行位置情報を駅に設置したデジタルサイネージや「JR九州アプリ」上で提供し、宮崎交通ではバスの接近情報をバスロケーションシステム（2020年11月導入）によりバス停に設置したデジタルサイネージや「宮交バスどこドコ??」でスマートフォン上に提供してまいりました。

新しいデジタルサイネージの設置により、列車をご利用されるお客さまだけでなく、乗りかえなどで駅最寄りのバス停からバスをご利用される場合も、駅舎内の待合室でバスの接近情報を確認することが可能となり、快適にバスをお待ちいただけるようになります。

これまで2社は、宮崎駅ビル「アミュプラザみやざき」の開業に合わせて、宮崎駅バス乗り場の整備や、マルチモーダルアプリ「my route」上で共同チケットを発売するMaaS（※）実証実験の実施など、地域交通ネットワークの利便性向上策に連携して取り組んでまいりました。

今回のデジタルサイネージの設置は、地域の足を支え続ける交通事業者として、新型コロナウイルスによる厳しい環境下においても、よりご利用しやすいサービスの実現を目指して、2社で連携して導入いたしました。

今後も2社の連携により、宮崎県内の鉄道及び路線バスの利便性の向上と、ご利用の促進に努めてまいります。

（※）「MaaS（=Mobility as a Service）」

複数の移動手段（航空、鉄道、高速バス、路線バス、タクシー、カーシェア、シェアサイクル、徒歩等）を使ったマルチモードなルートの検索、利用の予約や決済に加え、地域の商業・観光・イベント情報などの検索を、一つのスマートフォンアプリ上で提供するサービス

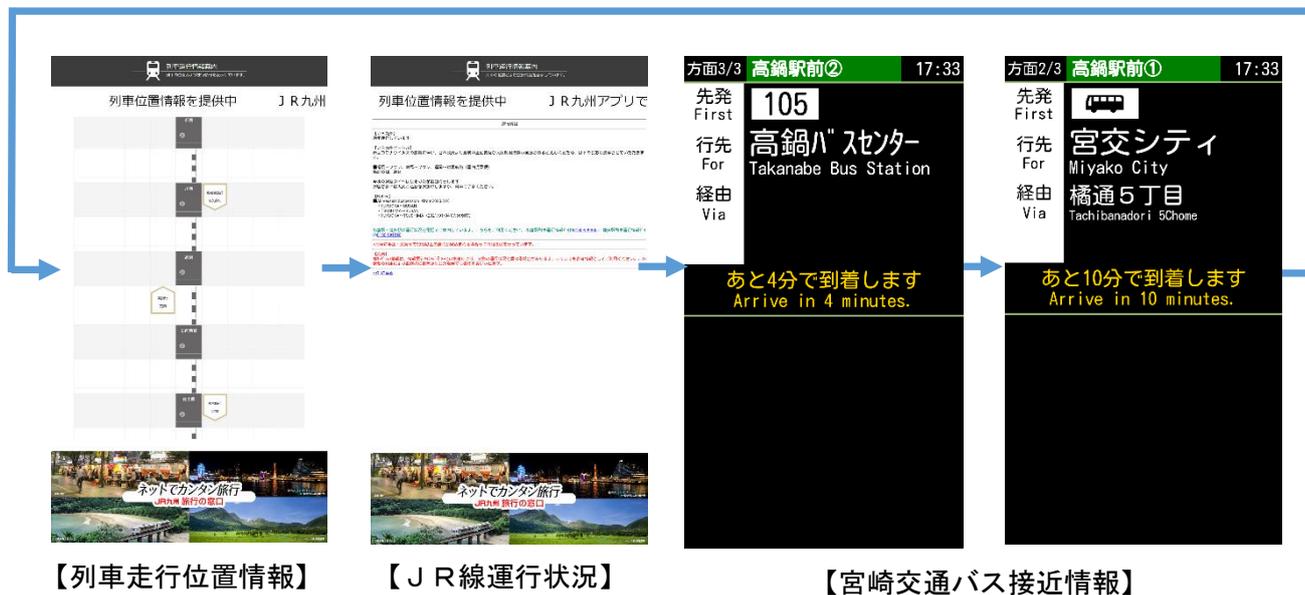
【駅への設置イメージ】

32インチモニターを窓口内に設置



【画面表示イメージ】

順に表示します



このデジタルサイネージは以下の2社の技術協力により開発いたしました。

株式会社 Will Smart (本社：東京都江東区)

新潟通信機株式会社 (本社：新潟県新潟市)